

黒髮塚

撫水作

特71

566

301174-000-2

特71-566

黒髮塚

林田撫水/作, 三善和氣/曲

M39.9

CEH-0016



特71  
566



77W13826

# 序

くろかみもなにをしからんわかせこに

つゝかなかれと神にいのりて

これ東久世伯爵が香取神社に詣で、  
詠じ給ひたる御歌なり、髻みじかに惜  
氣もなく断切りて神前に捧げたる黒  
髪も誰の爲ぞ、

―林田撫水―

黒

# 黒髪塚

黒髪長く美はしき

林田撫水

女心の筋に

黒一

# 黒髪塚

調二拍子

三善和氣作曲



3. 3 3. 3 | 7. 7 7. 7 | 1. 7 6. 6 | 7. 0 |  
ク ロ カ ミ ナー ガ ク ウ ル ハ シ キ



1. 1 7. 7 | 6. 6 4. 4 | 1. 1 1. 7 | 6. 0 |  
チー ツ ナ ゴ コ ロ ノ ヒ ト ス ナ ニ



6. 6 4. 6 | 3. 3 2. 3 | 4. 3 2. 2 | 3. 0 |  
ナ ッ ト ナ オー モ ヒ コ ナ オ モ ヒ



6. 7 1. 1 | 7. 6 4. 6 | 3. 3 7. 7 | 6. 0 ||  
チ チ ウ ヘ ハ ハ ウ ヘ シ タ ヒ ツ ツ

夫をつとを思おもひ子こを思おもひ

父ちち上うへ兄あに上うへ慕したひつゝ

二、此所こゝ千葉縣ちばけんの香取郡かとりぐん

香取神社かとりじんじやに詣もでては

御無事ごぶじで戦争せんそうなされよと

三、泉いづみの様ように涌わきいづる

情なさけの胸むねに手てをあてゝ

思おもひまはせば中々なかなかに

諦あきらめられるものでない

四

男おとこであらばあーもしよー

こーもしよーと思おもへども

いたし方かたなき今いまの身みは

せめても神かみを祈いのらんと

五

女をんなにしては生いのち命めいなる

緑みどりの黒くろ髪かみ惜をし氣けなく

髻ももどりみじかに断たち切きりて

御神みかみの前まへに捧ささげつ

六

あした夕ゆふにみ社やしろの

みくじにすがりし赤ま心こころは

美しいより勇しい

日本女のかぐみです

七、親と思ふて気がゆるみ

もしやおくれをとろーかど

我子の出征に自害して

てほんしめした母もある

八、あなたが戦死なされたら

わたしも共に死にますと

夫の出征に勇しゆー

なだめわかれた妻もある

九、敵のつき込む銃劍で

腹にぐられしつらさより

くるしい思をしのみたる

日本婦人のあればこそ

一〇、古今まれなる戦争に

立派な手柄も出来ました

名譽の戦死も出来ました

かゝる勝利を得たのです

一一、つゝがなかれとわがせこに

惜しからざりし黒髪は

歌作泉飛下真

大東乃 山郷木 元大大 帥将将 隊隊隊

第一版 第九版 第十版 第十版 第十版 第六版

長く歴史に残ります

(完)

神にといいて神もまた

勇士を守つて下さつた

二、尊い清い勇しい

女心を埋めたる

香取神社の髪塚は



林田撫水作歌

○遺族の母 第八版 定郵

○愛馬 第八版 價税

○癡兵 第四版 一八

○お墓詣 第四版 冊冊

○勇士の涙 第四版 金迄

○兒玉大將 愈々發賣 貳貳

○黒髮塚 愈々發賣 錢錢

明治三十九年九月五日印刷  
明治三十九年九月八日發行

定價 金貳錢



著作者 林田撫水

京都市御幸町姉小路北入八番戸

發行兼印刷者 藤井孫兵衛

京都市上京區柳馬場通二條下ル

印刷所 京都印刷株式會社

發兌

京都市御幸町通姉小路北入  
京都市日本橋區博正町一番地

五車樓

特(電話五百二十一番)

學校及家庭  
用言文一致  
叙事唱歌

真下飛泉先生作歌

各定價一部金貳錢  
郵錢八冊迄金貳錢

於全國市部各書店  
於發賣致居候也

第一篇  
第二篇  
第三篇  
第四篇  
第五篇  
第六篇

出征  
露戰  
負傷  
看傷  
凱旋

第十版  
第五版  
第七版  
第十版  
第一版  
第八版

第七篇  
第八篇  
第九篇  
第十篇  
第十一篇  
第十二篇

夕飯  
墓前  
慰問  
勲章  
實業  
村長

第四版  
第五版  
第三版  
第三版  
第二版  
第二版